



DX通信 Vol.7

サテライトオフィスの誘致を施策の軸の一つとして「地域活性化の取り組み」を進めている地域があります！

徳島県名西郡神山町は県の北東部に位置し、吉野川の支流である鮎喰川の畔に広がる山間の地形で平地に乏しく、町の約83%が300~1,500m級の山域で占められている。かつての基幹産業であった林業の衰退とともに人口は減少傾向を辿り、70年代初めには1万3千人を超えていたが2015年5月現在は5,918人（神山町HP）となっている。

神山町では転入が転出を上回るという社会増が11年度に起こった。もともと、この社会増は単年度だけにとどまりその後は社会減が続いているが、以前に比べると減少幅が小さくなっていることがみてとれる。転入者のうち、神山町への移住情報の発信や古民家の斡旋など移住の促進を行う「神山町移住交流支援センター」経由で移住した人たちの内訳をみると、10~13年度の移住者は58世帯105名であった。このうち子どもが27名含まれるなど若い世帯が多く、平均年齢は30才前後という。

若年人口が流出し、人口減少と高齢化が進行するという通常の過疎地域とはやや異なることが神山町では起こっているのである。

神山町では2010年以降、ITベンチャー企業を中心に現在までに12社が古民家を活用するなどしてサテライトオフィスを設置している。

IT企業を誘致することができた理由として、通信インフラが完備していたことが挙げられる。徳島県は、地上デジタル放送移行の対策として「全県CATV網構想」を策定し02年から推進していたが、これは高速大容量のブロードバンド網が県内に整備されることにもなり、徳島県は全国屈指のブロードバンド王国になった。県内各自治体で整備が進み、神山町においては05年に既に町内全戸に光ファイバーが敷設されていたのである。

少子高齢化が進む中、コロナ禍を経て、我が国では在宅勤務やテレワーク等が一気に進んだ。高速通信網の整備と企業誘致による地域活性化に取り組む本事例は様々な示唆に富むと考えられる。

次号では公開されているデータを用いて、他の地域の通信インフラの整備状況を見ることで、地域活性化の可能性等について考えたい。



写真 古民家を改装したサテライトオフィス例

出典：『ながさき経済』（2016.6）「神山町における地域活性化の取り組み」,株式会社長崎経済研究所